

## 2026年2月13日（金）第4回 学校運営協議会 議事録

参加者：

<学校運営協議会委員>

川島委員、原委員、松田委員、徳川委員、早川委員、生駒委員、山下裕子委員、前田委員、佐藤委員、山下由美委員

<校内委員>

平山校長、原口教頭、田島教諭、徳永教諭、末松教諭、池本教諭

### （1）学校長挨拶

皆さん、こんにちは。第4回学校運営協議会にお集まりいただきありがとうございます。先日、1月28日に実施された第1回探究プレゼン大会に委員の皆様にもご来場・ご協力いただきました。改めてありがとうございました。生徒たちは企画運営も含めて、そしてもちろん1年間の探究活動の総括としての発表も、本当に一生懸命に取り組んでくれました。発表そのものが良かっただけでなく、生徒が積極的に活動してくれたなど感じておりました、本当に良い大会になったと思います。今日は後の議題の中で、今申し上げたプレゼン大会の総括も含め、今年1年間の取り組みなどまずは私から説明させていただきたいと考えています。本日はどうぞよろしくお願ひいたします。

### （2）学校からの報告

#### ①普通科改革について（平山校長）

- ・探究活動は2年目。1年・2年・3年と段階的に取り組みを深めるカリキュラムを継続中。
- ・探究の時間数については検討の余地がある（特に1年生の時間が不足気味との意見）。

#### 今年度の主な取り組み

- ・1、2年生の探究活動の実施
- ・令和9年度以降を見据えた組織づくり（探究と進路の連携強化）
- ・外部協力者との持続的な連携体制づくり

### 外部連携について

- ・地域団体・大学・企業などの「探究サポーター」26人が登録。
- ・市の「Karatsu Lab（唐津ラボ）」、大学（早稲田・東北）、企業（佐賀銀行、JRなど）と連携が深化。
- ・高校生と地域をつなぐシステム「未来ナビ」の構築が進んでいる。

### 探究ルームの整備

- ・椅子、机、照明など環境整備を進行中。
- ・将来は地域連携拠点としても活用予定。

### 1年生の取り組み

- ・昨年度の課題を踏まえ「きっかけセッション」を導入。3分の1の生徒がテーマ設定に役立ったと回答。
- ・統計講演などの基礎スキル指導を強化。
- ・9月の文化祭で探究のミニ探究を実施。
- ・コース選択は枠を設けず、生徒の自由なテーマ設定を優先。

### 2年生の取り組み

- ・153人が47グループで活動。データ分析・実験・フィールドワークなど多様。
- ・大学との連携（オンライン・訪問・共同フィールドワーク等）を多数実施。
- ・長松中学校での授業の実施。
- ・早稲田大学の学生と意見交換。
- ・プレゼン大会は生徒主体で運営。レベルの高い発表が多かった。
- ・企業との共同開発（入浴剤開発など）などの成果もあり。

## ②学校評価最終評価について（原口教頭）

### B 評価となった主な項目と理由

#### 1. 健康管理（健康づくり）

- 健康診断後の再検査受診率が低かった。

#### 2. 業務改善・働き方改革

- 年休取得日数が目標（14日）に届かず平均9.7日だった。

#### 3. 特別支援教育

- 職員の専門性向上に関するアンケート結果が低かった。

#### 4. 地域交流（地域の話聞く機会）

- 目標数値に未達。

他のアンケート項目については概ね目標を達成した。2月中に委員からの意見をメールで受け付け、評価シートの空欄に反映し提出する予定。また、来年度5月上旬にホームページで公開予定。

## ③学校魅力化アンケートについて（田島教諭）

### アンケートの概要

- ・全国平均に比べて多くの項目で上回っている。

- ・（学校満足度等）は今年度に少し下落。

探究以外の学校生活要因（校則、行事、部活動など）が影響している可能性。

- ・前回より下がった項目

自主的調査（授業外活動）

地域課題の調査

振り返り・改善行動 → 後半の探究活動における活動量が影響したと推測。

#### 探究ルームの整備について

生徒の主体的参加者（探究委員希望者）が増えてきている。

探究プレゼン大会の運営を生徒が積極的に支えた。

今後も生徒の意見を反映した空間整備を進める。

映像編集用 PC・照明・グリーンバック等を寄付や申請で整備予定。

動画発信による広報力の強化を図る。

#### ④議題「自由提案」

**委員 A** 「探究の振り返りアンケートとキャリアパスポートの連携をどう進めるか。卒業後も見返せる一体的な記録にしてほしい。ポートフォリオ化はどうか。」

**田島教諭** 「現状、キャリア教育（進路指導）と探究支援が別系統で、十分にリンクできていない課題がある。目標は記録の一本化／相互参照（どちらかを見れば双方の学び・成長が辿れる状態）。次年度以降の設計課題として検討する。」

**委員 B** 「在学中は探究活動の価値を実感しづらい面がある。卒業生の体験談・効果実感を集めて広報・後輩指導に活かすべきではないか。」

**田島教諭** 「在校時より卒業後に効用を自覚する声は多い。卒業生ネットワークの活用・証言収集・発信を強めたい。」

委員 C 「学校魅力化アンケートの統一設問に加え、学校独自で「身についた力」を問う設問を追加し、中学生への説明材料とするのはどうか。高校生が中学校で説明する機会も有効ではないか。探究活動を通じてどのような能力が身についたかを可視化するのはどうか。」

田島教諭 「独自項目の設置について前向きに検討したい。」

委員 D 「Instagramなどで中学生目線の発信を。近隣校は学校行事や部活の情報発信が充実しているので比較されやすい。」

田島教諭 「パネルディスカッションのテーマでもあったが在校生の意見を取り入れたPRを検討していく。」

委員 E 「探究プレゼン大会の受付で卒業生が手伝いに来ていた。大学生・卒業生・在校生をつなぐ場を増やしていくのはどうか。」

田島教諭 「生徒は色々な世代の人との関わりを通じて成長できている。将来の力や社会に必要な能力として探究の意義を生徒・保護者へPRしていく必要がある。」

委員 F 「中学生が高校での探究活動を手伝うボランティアを通じて、西高を目指すなどの循環が生まれるのではないか。展開できるか？」

委員 C 「中学校でも課題解決型学習のような取り組みは行っている。海洋系のテーマであれば連携できる可能性はある。」

委員 G 「言語化・自分事化の弱さが目立つ（発表後の応答が浅い等）。総合型選抜も不利になり得るのではないか。地域側の期待と生徒の成長段階のギャップから苦情が生じる場面がある。調整が必要。また、教員間の運用差・矛盾（主体性を求めつつ別場面で一律禁止など）を生徒が感じることもある。それでも探究はとても楽しいという生徒の声は強い。」

田島教諭 「重要な指摘として真摯に受け止める。教員間の足並みや生徒への目的共有など改善検討とする。」

委員 H 「探究活動を推薦入試などの武器として考えていくのはどうか。」

田島教諭 「進路につなげていくという観点からも探究活動を充実させていきたい。」

## ⑤その他

来年度の委任委嘱について（徳永教諭）

「次年度も現委員のご協力いただける方についてお願いしたい。」

### 学校長より（平山校長）

「本日はありがとうございました。まさに今日の議題はカリキュラムマネジメントの根幹に関わる議論であったと考えています。様々なヒントを頂いたうえで、いわゆる地域貢献学習を進める時に、大事なものは内部的協働、学校内の組織的な協働。あとは学校と外がどのように繋がっていく外部的協働。つまりお互いをいかに補完できるかという体制と作っていくことが大事なのかなと思います。そのハブとなるのがこの学校運営協議会と考えています。今年1年間にかけて議論をしていただきまして、ありがとうございました。」